

## 第1回 カーボンニュートラル推進本部会議 議事録

### 1 開催日時

令和5年5月22日（月） 11:15～11:25

### 2 議事内容

#### ○鈴木副知事

ただ今から、「第1回福島県カーボンニュートラル推進本部会議」を開催します。早速、議題（1）について、生活環境部長。

#### ○生活環境部長

資料1-1の1ページを御覧ください。県全体のカーボンニュートラルの推進母体として、知事を代表、各団体代表を副代表とした、「ふくしまカーボンニュートラル実現会議」を新たに設立するものであります。

約200の団体等が委員となる「総会」に加え、実務的な議論の場となる企画委員会、市町村等との連携を強めるための市町村部会を新設いたします。

2ページを御覧ください。「ふくしまカーボンニュートラル実現会議設立総会」についてであります。設立総会を6月1日に開催いたします。総会では、「ふくしまカーボンニュートラル実現宣言」、「ふくしまカーボンニュートラルアクションプラン」を発表するとともに、基調講演として、中小企業がカーボンニュートラルに取り組む必要性について、東京海上日動の北沢利文相談役に、カーボンニュートラルの取組による地方創生についてヤフーの西田修一執行役員に御登壇いただくこととしております。

説明は以上でございます。

#### ○鈴木副知事

ただいまの説明に関して、何かありますか。

よろしいですか。なければ、議題（1）について、原案のとおり決定することとします。

それでは、議題（2）報告事項について、生活環境部長。

#### ○生活環境部長

資料2の1ページを御覧ください。「令和4年度の福島県地球温暖化対

策推進計画等に基づく施策の実施状況」について、御報告します。温室効果ガスの排出削減・吸収源対策である「緩和策」として、計画の柱である「県民総ぐるみの省エネ対策の徹底」、「再エネの最大限の活用」などに基づいて、環境イベントの開催などの普及啓発、電気自動車、再エネ設備等の導入支援などを行ってまいりました。

3 ページをご覧ください。次に、気候変動の影響による被害の回避・軽減対策である「適応策」として、適応7分野のうち、気象リスクに強い農作物の栽培管理技術の推進、防災意識の定着化、熱中症予防の情報発信等を行ってまいりました。

4 ページをご覧ください。県も一事業者、一消費者として、省資源・省エネルギーの取組を推進していく必要があることから、環境創造センターでのPPA方式による太陽光発電設備の導入など、県有施設への脱炭素設備等の導入に取り組んでまいりました。

次に、資料3の1 ページを御覧ください。「令和5年度の福島県地球温暖化対策推進計画等に基づく施策の実施計画」について、御報告します。

まず、緩和策推進のため、ふくしまならではのZEHモデル事業などの新しい取組も含め、省エネ対策、再エネの最大限の活用、吸収源対策など、各種事業を確実に実施してまいります。

2 ページをご覧ください。4月1日に県の気候変動適応センターを設置したところであり、適応策を推進するため、農業林水産業の各分野、自然災害・沿岸域分野、健康分野などにおける各種事業を実施してまいります。

次に、3 ページを御覧ください。「令和5年度エコオフィス実践計画に基づく主な取組」として、「県有施設脱炭素化アクションプラン」に基づき、脱炭素移行・再エネ推進交付金等を活用しながら、県有施設の脱炭素化に県庁一丸となって取り組んでまいります。

4 ページをご覧ください。ふくしまエコオフィス実践計画の環境方針に基づき、ペーパーレス化の推進など、環境負荷低減の取組を進めてまいります。

最後に、資料4を御覧ください。4月18日にカーボンニュートラル推進調整会議を開催し、令和5年度の重要事項を決定いたしました。今後は、重要事項に該当するプロジェクトチームを設置いたしまして、部局横断で事業間の連携や来年度に向け、重点事業の構築を検討してまいります。

説明は以上となります。

**○鈴木副知事**

ただいまの説明に関して、何かありますか。企画調整部長。

**○企画調整部長**

企画調整部では、地域主導による再エネの導入や水素ステーションの整備支援などに取り組んでいるところです。これらの取組はカーボンニュートラルと親和性が高く、今後のカーボンニュートラル推進にも貢献できるものと考えているところであり、引き続き推進してまいります。

**○鈴木副知事**

商工労働部長。

**○商工労働部長**

商工労働部といたしましては、県内企業のカーボンニュートラルに向けた取組を後押しするため、省エネ設備等の導入や技術開発の支援、人材の育成に取り組むとともに、再エネ・水素関連産業の育成・集積を進めることで脱炭素化に資する取組や機運の醸成を図り、カーボンニュートラルを推進してまいります。

**○鈴木副知事**

農林水産部長。

**○農林水産部長**

温室効果ガスの緩和策の一つである吸収源対策につきましては、引き続き、間伐を始めとする森林整備や森林環境の保全、県民参加による森林づくりなどを推進してまいります。

また、木質バイオマスを利用するストーブの導入支援を行い、再生可能エネルギーの利用を促進してまいります。

気候変動への適応につきましては、農作物や魚介類等への影響予測を行いながら、高温に強い品種や、気象リスクに強い生産技術の開発、普及を進めてまいります。

**○鈴木副知事**

その他、何かありますか。

なければ、知事からお願いいたします。

## ○内堀知事

県民の皆さんと共に、カーボンニュートラルを前進させていくためには、オール福島の新しい体制が重要であり、来月スタートとなります。

地球温暖化への対応は、復興と地方創生を両輪で進めていく福島県にとっても避けることのできない喫緊の課題です。

2050年度のカーボンニュートラルの達成、脱炭素社会を実現していくためには、多くの関係者と様々な取組を進めていかなければなりません。

県民の皆さんとともに歩む大切なチャレンジとなります。

その際、重要なキーワードが2つあります。

一つ目は「アクション」、行動です。カーボンニュートラルを実現するためには、具体的な行動、実践が不可欠であります。まず、動く、アクションを行う、その思いが大切です。

二つ目は、「パートナーシップ」、連携です。一つ一つの主体が、アクションを行う、これももちろん重要ですが、関係する皆さんが、パートナーシップ、連携をして、ともに力を合わせることで、1+1が2ではなく、3にも、5にも、10にも、大きく広がっていきます。

このアクションとパートナーシップを大切にしながら、本県における脱炭素、カーボンニュートラルの達成にしっかり取り組んでいきましょう。

## ○鈴木副知事

以上で、会議を閉じます。